

□ トピック □ クロバネキノコバエの大量発生

梅雨になり、じめじめしがちな季節が始まりました。この時期は生物にとって必要な水分が多くなる時期であり、様々な生物の大量発生の事例をよく耳にします。

例えばクロバネキノコバエ科に属する昆虫は、6～7月にかけて気温が上昇し、雨が降った翌日などに大量発生する事例があります。この昆虫群はヒトに対して刺咬被害は起こしませんが、そこにいると「いやな気持ちにさせる」、気持ちへの被害を起こす不快害虫です。一例として、成虫が短期間のうちに大量に発生し、すぐに死骸の山ができることがあります。それが何日間も続くので、異物混入、異臭、不快などの被害をもたらすことがあります。さらに、小型のクロバネキノコバエの仲間は体が小さく、開口部以外にも窓やドアの隙間、網戸の目などのわずかな隙間から侵入してきてることがあります。大量発生に関しては、現在まだ予測が困難であり、毎年あちこちで被害が出ています。

前述のように、残念ながら大量発生はまだ予測ができません。突然の事態に慌てないための転ばぬ先の杖とするように、今のうちから対策の準備をしておくことが重要です。



クロバネキノコバエ科の成虫

□ お知らせ □ クロバネキノコバエの防除

クロバネキノコバエ科昆虫の飛翔能力は低いといわれます。こういった虫を建屋に侵入させないためのキーワードの一つが「気圧」です。例えば例に換気扇を挙げます。換気扇は使用時には内気を強制的に外に押し出す一方、足りなくなった外気をどこから屋内に取り込みます。このどこから、が問題で「陰圧」を作り出す原因です。適正な給気装置があれば、そのどこか(窓やドア、その他の隙間)から空気と一緒に近くにいる虫を吸い込むことを防ぐことができます。加えて、本科昆虫は、じめっとした朝方、あるいは夕方に多く飛び回ることが多いので、こういった時間には換気扇の使用を控えることも対策の一つです。

また、本科昆虫の発生源としては、朽木が濡れて腐った部分や腐葉土、有機質に富んだ土壌中などの腐植物を好むので、建物周辺の堆肥や花壇、植木鉢等から突発的に発生することがあり、工場内では、空調機や床面に溜まった食品残渣(特に植物質)から発生した事例があります。この発生源を特定するのは極めて難しいですが、周辺の清掃や、身近な発生可能場所を潰すことも対策のひとつになります。

防虫対策はまず発生源対策、次に侵入防止対策、最後に分散防止対策の順番で考え、その虫や状況に適した方法を選択する必要があります。クロバネキノコバエ類に関わらず、お困りのこと、疑問等がありましたら、一度弊社にご相談ください。

□ 豆知識 □ 綺麗なものには毒がある

梅雨の季節になると、家や道端の片隅に咲く紫陽花(あじさい)が目に入ります。雨の続くじめじめした時期の心に涼しい風を吹かせてくれます。

しかし、実は紫陽花は毒草です。1920年にアメリカで家畜が中毒になった事例が発端でそれがわかったと言われます。中毒症状としては、食後30～40分の間に嘔吐、めまい、顔面紅潮の症状が起こります。実際に日本でも、料理に添えられた紫陽花の葉を食べた10人中8人が、食後30分以内に吐き気やめまいなどの症状を訴えた事例があります。紫陽花には青酸配糖体、抗マラリア成分、嘔吐性アルカロイドが含まれていると言われていますが、正確な毒性は未解明です。ただし、その被害は経口摂食に限られますので、見たり触ったり、(樹液が付着しないように)調理の見た目のアクセントなどに使用することは問題ありません。

紫陽花の他にもニラと間違えてスイセンを食べてしまい、吐き気、下痢、嘔吐などの食中毒症状が起こった事例、ギョウジャニンニクと間違えてイヌサフランを食べたことによる死亡事例もあります。採集した植物を食べる際は、きちんと確認を行うようにしましょう。



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社: 岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点: 大阪, 姫路, 岡山, 倉敷, 福山, 広島, 高松, 松山

関東(市川)